

世界の音楽ファンを魅了するマツエフがいよいよ日本ソロ・リサイタル
ロシア文化フェスティバル20周年・日ロ国交回復70周年スペシャルコンサート

デニス・マツエフの 巨星ピアノの



1998年第11回チャイコフスキー国際コンクール優勝

2019年第16回チャイコフスキー国際コンクールピアノ部門審査委員長

2026年

6月1日(月)

14:00 横浜・みなとみらい大ホール
全席指定 S 8,000円 A 6,000円 B 5,000円

2日(火)

19:00 東京・浜離宮朝日ホール
全席指定 8,000円

4日(木)

14:00 東京・浜離宮朝日ホール
全席指定 8,000円

5日(金)

14:00 神戸・兵庫県立芸術文化センター
KOBELCO大ホール
全席指定 S 6,000円 A 5,000円 B 4,000円

2026年1月チケット発売開始

お問い合わせ・お申し込み ロシアン・アーツ ☎03-5919-1051

チケット取り扱い

■MIYAZAWA & Co. <https://www.funity.jp/tickets/miyazawac/showlist>

■チケットぴあ <https://t.pia.jp/>

■ローソンチケット <https://l-tike.com/> (横浜・東京公演Lコード:36409)

■イープラス <https://eplus.jp/>

■各公演ホールチケットセンター

横浜みなとみらいホールチケットセンター ☎045-682-2000

浜離宮朝日ホールチケットセンター ☎03-3267-9990

兵庫県立芸術文化センターチケットオフィス ☎0798-68-0255

サンライズプロモーション(神戸公演) ☎0570-00-3337(平日12:00-15:00)

主催/ロシア文化フェスティバル組織委員会
& ロシアン・アーツ

共催/MIYAZAWAカンパニー

後援/ロシア連邦外務省・文化省・

駐日ロシア連邦大使館・ロシア連邦協力庁・

INARTEX・ロ日協会



演奏プログラム

J.S.バッハ=ブゾーニ

無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ 第2番 二短調より「シャコンヌ」

ベートーヴェン

ピアノソナタ 第23番 ヘ短調 「熱情」 作品57

チャイコフスキー

瞑想曲 二長調 作品72-5

プロコフィエフ

ピアノソナタ 第8番 変ロ長調 作品84

©Vladimir Vasilchikov

曲目解説

石田一志=音楽評論家

J.S.バッハ： ヴァイオリンのためのパルティータよりシャコンヌ (ピアノ編曲ブゾーニ)

ケーテン時代の1820年頃に作曲された「無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番二短調BWV1004」の終曲(第5楽章)であるパッサカリアは、精神性の深さを湛えたJ.S.バッハの屈指の名作で、単独でも演奏される。荘重な主題とその30の変奏曲は、デモーニッシュな32分音符の疾走、あるいはヴェールのようなアルペジオ、そして壮麗な二長調部分へと見事な緊張と弛緩の流れで推移してゆく。ブラームスによる左手用練習曲としての編曲もあるが、F.ブゾーニによる編曲(1897年頃)は、この曲の記念碑的なスケールの大きさ、精神性、巨匠性といった側面を強調している。1920年に刊行された7巻からなるバッハ=ブゾーニ全集の第3巻にオルガン作品のピアノ編曲と共に収められている。

L.ベートーヴェン： ピアノ・ソナタ第23番ヘ短調「熱情」 作品57

1804-05年に作曲され、永遠の恋人といわれるテレゼの兄、ブルンスヴィック伯爵に献呈されたベートーヴェン中期の最高傑作。雄大な規模と内容の3楽章作品で、第1楽章の冒頭主題が、第2第3楽章の主題に影響を及ぼしているため、全曲の有機的な統一感が強いのが特徴である。そして激しい情熱と嘆き、幸福へのあこがれが全曲に溢れている。また、「運命の動機」も加わる第1楽章の冒頭部分を含めて、情熱的で激しい闘争的性格は交響曲第5番と共通するところがある。標題は作曲家自身のものではなく、1838年にハンプルクの出版社クラッツがこの曲のピアノ連弾版を出版した際に付けられたものだが、この曲に、似つかわしい命名といえよう。

P.チャイコフスキー： 「瞑想曲」二長調 作品72-5

チャイコフスキーは最後の年である1893年も国際的な指揮活動と交響曲第6番の作曲とで充実した日々を過ごしていた。交響曲第6番は2

月に着手され、3月半ばに下書きが完成された。それに続いて4月にタリンで2週間ほどの短期間で書き上げたのが、この「18の小品」作品72であった。単純な形式の小品集ではあるが、変化にとんだ曲想、旋律表現、音色などによって洗練されたピアノイズムが味わえる曲集となっている。これはその第5番で、夢想的で詩情溢れる小品である。

S.プロコフィエフ： ピアノ・ソナタ第8番変ロ長調 作品84

プロコフィエフが独ソ戦の最中に作曲した第6、7、8番の3作のソナタは「戦争ソナタ」3部作と呼ばれている。1923年の第5番から10数年もの間、遠ざかっていたピアノ・ソナタの創作であったが、長い沈黙後に発表したこれら3部作によって、プロコフィエフは一気にこの分野の頂点を極めたのであった。

いずれも1939年に着手されているが、完成は第6番が40年、第7番が42年、そしてこの第8番は交響曲第5番と同じ1944年であった。そして同年12月30日に当時28歳であったグレリスによって初演され、晩年に生活を共にした女性ミラ・メンデルソンに捧げられた。

同じ3楽章構成で緊張感に溢れる第7番よりもはるかに規模は大きく温和な雰囲気を感じている。アンダンテ・ドルチェの平安な感じの第1楽章。スラブ舞曲風の主題による変奏曲の第2楽章。華やかなコーダをもつ劇的に展開されるとりわけ長大なロンド形式の第3楽章から構成されている。

デニス・マツエフ



©Eugene Evukhov

1975年イルクーツク市生まれ。15歳の時に家族でモスクワに転居しモスクワ国立音楽院付属中央音楽学校に編入。1998年第11回国際チャイコフスキーコンクール優勝。以降、アメリカのニューヨーク・フィルハーモニック、シカゴ交響楽団、ドイツのベルリンフィルハーモニー管弦楽団、英国のロンドン交響楽団など世界に名だたる楽団、V・ゲルギエフ、Yu・テミルカーノフなど著名な指揮者と共演、ロシアを代表するピアニストである。2014年にはソチ五輪開会式で演奏。2019年第16回国際チャイコフスキーコンクールピアノ部門審査委員長。